

平成29年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT29314 プログラム名 復興を目指して！ふるさとのモバイル博物館を作ろう！



開催日：平成29年①8月5日 ②9月28日  
実施機関：熊本大学大学院人文社会科学研究所(文)  
(実施場所) (①熊本大学②西原村立西原中学校)  
実施代表者：山下裕作(熊本大学 大学院人文社会  
(所属・職名) 科学研究部 教授)  
受講生：①中学生9名 高校生3名  
②中学生22名  
関連URL：

### 【実施内容】

熊本大学で開発中のモバイル型地域博物館システム(MMG)は、PCそしてモバイル端末(iPhone iPad)を活用した持ち運べるGISシステムであり、未利用に近い地域資源を収集・理解・顕在化し、資源化するためのシステムである。地域住民自身が学芸員となり、自ら生活の中で価値あるものを収集し、整理し、検討し、展示につなげ、資源として有効活用する自由な博物館システムでもある。このシステムにはまた、農地管理用・災害対策用GISシステムも組み込まれており、博物館システムとしての日常使いを通して、非常時に速やかな状況確認と災害対策計画の策定に有意に役立つ特性を持っている。

今回は、中学生・高校生を対象に、実際にMMGシステムを現場で使用してもらい、その特性と有効性を理解してもらい、将来的なユーザーになってもらう技術普及のためのインセンティブ形成、もしくは普及のための課題の抽出、そして、将来的な研究継続の担い手の育成を目的としてプロジェクトを実施した。

### 【当日のスケジュール】

- 9:40～10:00 受付(集合：①熊本大学文法棟前 ②西原中学校)
- 10:00～10:20 開講式(挨拶・オリエンテーション・科研費の説明)
- 10:20～11:00 講義「熊本の文化財」(熊本県文化財課 池田朋生)
- 11:00～12:00 MMGシステムの実演と操作方法のレクチャー  
(熊大 山下裕作・(株)イマジックデザイン 友松貴志)
- 12:00～13:00 昼食・休憩(各回の会場にて)
- 13:00～13:20 現地実習準備：MMGワークショップの説明
- 13:20～15:00 実習1：ワークショップ(①熊本大学オープンキャンパス探索 ②西原村萌の里探索)
- 15:20～15:50 実習2：ワークショップ情報の整理、MMGでの作業
- 15:50～16:40 実習成果(MMGシステムの画面)を見ながらディスカッション
- 16:40～17:00 修了式(アンケートの記入、未来博士号の授与)

### 【留意・工夫した点】

今回、受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、MMGシステムの中に、プロジェクト実施会場である「①熊本大学の地域博物館プロジェクト」と「②西原村博物館プロジェクト」を作成。MMG 端末である iPad にも同期し、実際の現場(リアル)とMMG(ヴァーチャル)がリンクする環境を整えた。そして、その iPad をオペレーター(学生バイト)付きで、4～5人からなる班に持たせ、会場である学内あるいは萌の里周辺を自由に歩かせ、興味を引く事象を記録させた。その際、①では周囲の多様な事象に興味を持って見てもらうために、写真性の高い俳句を一人最低一句詠むことを課した。また②では歴史班・景観班・環境班に分け、それぞれ専門

家から提供される情報のもとで写真やメモを記録させた。その俳句、および採取写真は、現場から iPad 内の MMG システム (iMMG) に直接記入・記録し、本部に設置した PC (MMG 本体) に送信させた。それを、ワークショップ情報の整理で披露しながら、①では句会も実施し、①②の双方で文化財 (研究協力者) や里山・里川・溜め池等の環境 (実施協力者) や民俗学 (実施代表者) の専門家のユニークな説明を交え MMG システムそのものを楽しんでもらえるようつとめた。本試みは非常に効果的だったと思われる。

### 【実施の様子】

①では各班オープンキャンパス中の学内を自由に回り、様々な資源写真を撮影し、自由な感性で俳句も詠んだ。また、②では各専門家 (代表者・分担者・協力者) と、補助の熊本大学大学院社会文化科学研究科の大学院生や同大文学部総合人間学科民俗学履修モデルの学生 4~5 人、そして中学生達からなるグループで、現地 (西原村内交流施設萌の里周辺の草地と文化財) を巡り、興味を惹く説明と共に、中学生達自身による発見を尊重しながら、各グループで適切かつ有意義にワークショップを実施した。終始和気藹々と笑いが絶えず、楽しんで本科研課題、そして科研費事業の意義そのものを理解してくれた。将来の学術研究を担う人材も確保出来たと思われる。

### 【事務局との協力体制】

事務局の熊本大学 URA には、申請時の書類の修正・計画変更の申請書提出、そして本報告書の提出等、そして②における学術振興会の視察対応において協力していただいた。弁当や保険の手配、アンケートの集計に関しては大学院先導機構の協力を得た。しかしながら、それでも研究代表者の負担はかなり大きかった。



①熊本大学キャンパス内の散策



②萌の里周辺散策 (歴史班)



②萌の里周辺散策 (環境班)

### 【広報活動】

県内のほぼ全ての高校に、本プログラムのチラシを送付し、実施2週間前には市内の熊大に進学実績のある高校に再度送付したが、オープンキャンパスと同時実施したことが逆効果だったようで、高校生の参加者は少なかった。反省材料である。西原村での実施に関しては、同町の教育委員会・西原中学校の全面的な協力を得て問題なく実施し得た。

### 【安全配慮】

安全配慮に関しては、①では4~5人の班に、学生バイトを2名、②では5人の班 (2班で1グループ) に学生バイトを2~3名、と各グループに代表者・分担者・協力者の大人を貼り付け安全確保に努めた。受講者全員、最後まで元気に受講することができた。

### 【今後の発展性、課題】

他の業務負担 (教養授業や専門教育、就職指導等) が過大な上に、大学内でも本プログラムに対する意識が一部の職員・教員によっては一致しておらず、連携が上手いかない部分があった。学外のみならず、学内へこそ本プログラム実施の困難さと重要性を認知させることの重要性を強く感じた。

今後は URA の支援を活用しながら周知活動を重層的に展開し、事務との連携をより強化発展させていくことが必要である。

【実施分担者】 三澤純 熊本大学文学部・准教授

【実施協力者】 ① 14名 ② 22名

【事務担当者】 若松 永憲 マーケティング推進部大学院先導機構・研究コーディネーター